

奥能登珠洲市三崎町宇治の発音生活

— 背中〔henaka〕などの〔he〕について —

愛 宕 八 郎 康 隆

宇治(ウジ)は、珠洲市の内浦海岸線の北よりに位する、戸数約六〇の、農業(一部、小規模なイソライト工業)を生業とする部落である。

この小報告では、当部落の発音生活の特徴的な一事項——共通語で〔æ〕に発音するところを、〔he〕に発音する——をとりあげてみたいと思う。以下、この事実を、かりに〔he〕↑〔æ〕と略記することにする。

宇治部落の発音生活の特徴づける諸事項の中で、〔he〕↑〔æ〕は、たしかに、それらの中の有力な一項としてとりたてることができ。が、その実状は、かなり複雑で、もろもろの条件に負うと思われるものが多く、単純に法則化(〔he〕↑〔æ〕)できないように思う。

この小報告は、そのような実状を、できるだけ忠実に、記述しようとするものである。

調査の方法は、(1)質問法、(2)自然傍受法の二法を併用した。(1)の質問法では、あらかじめ一七九の調査項目を用意し、これを、土地生えぬきの、左の対象について調査した。

- | | | | |
|--------|--------------------|------------------|------------------------|
| 1 老年男子 | 下口 政吉 | 77才 | 農業 |
| 2 老年女子 | 榎谷 つぎ | 81才 | 農業 |
| 3 中年男子 | 下口 幸雄 | 30才 | 農業 |
| 4 中年女子 | 宮野 尤子 | 35才 | 農業 |
| 5 青年男子 | 三牧 慶丸 | 20才 | (本龍寺住職長男) |
| 6 青年女子 | 野々井耐子 | 17才 | 家事 |
| 7 少年男子 | { 干場 隆
宮野 為蔵 } | { 141才
141才 } | { (中学二年生)
(中学二年生) } |
| 8 少年女子 | { 下口 博子
脇田 文恵 } | { 15才
15才 } | { (中学三年生)
(中学三年生) } |
- 調査項目については、次の諸点に注意した。

- (A) 〔æ〕音節を含む調査語詞が、当方言社会の生活に密接な関係
を有するもの、反対に、わりと疎遠と思われるものの双方を合
むこと。
- (B) 〔æ〕音節の、語詞における位置が、語頭、語中、語末に、

それぞれ位するものであること。

⑥、〔se〕音節の、語中におかれる環境が多様であること。

⑦、〔se〕音節を含む調査語詞を、品詞上の観点や、和語系、漢語系の観点、それに、いわゆる単純、複合などの語構造の観点からをも、工夫すること。

⑧の自然傍受法は、次のように実践した。被調査者は、原則として、質問法の時の対象者とし、それらの人々が、土地人と自然な対話をまじえるのを聴録し、一定時間録音した。

録音法は、特に、録音そのことが、被調査者たちに意識されないようにつとめ、録音器も、携帯用小型録音器(日立のヘルソナー)を用いた。

録音延べ時間は、約四時間(ナショナル・ゴールドンテープ・四巻)である。

以上、(1)質問法を主法とし、(2)自然傍受法を併用整理した結果のもとにおいて、宇治部落の〔he〕→〔se〕のおこなわれさまを記述する。

注、調査期間は、昭和三十六年八月二日から八月一七日までの六日間である。

三

●()の中の算用数字は、二に掲げた被調査者の簡略表記である。

●算用数字を○で囲んだものは、〔 〕内の発音をすることを表わし、()で囲んだものは、〔 〕内の発音もするが、〔 〕内の〔he〕を〔se〕とも発音することを表わす。算用数字を

○()で囲んだものは、〔 〕内の〔he〕を〔se〕と発音することを表わす。

〔1〕 語頭

①〔he〕→〔se〕

1 世間〔heken〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) / 3 / 5 / 6 / 7 / 4〔jo

nonaka〕 2 咳〔heki〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) 3 説教〔hek:

jo:〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) 4 やんや〔hek:aku〕(①②③④⑤

6 7 8) 5 へんや〔hendaku〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) / 参考

洗濯〔sentaku〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) 6 船頭〔hendo:〕(①

5 6 7 8) / 〔hendosan〕(①②③④) 7 録音〔henko:〕(①

②③④⑤⑥⑦⑧) 8 煎薬〔hengjumsuri〕(①②③④⑤⑥) /

7・8は実物を知りなす。 9 やんや〔hembe:〕(①②③④

5 6 7 8) 10 狭す〔hemai〕(①②③) / 〔hepai〕(①②③④

⑤⑥⑦⑧) 11 攻める〔hemerm〕(①②③④⑤⑥⑦⑧⑨) 12

やんや〔hemmsi〕(①②③④⑤) / 〔heko〕(③④⑤⑥⑦) / 〔he

kommji〕(⑥) 13 背中〔henaka〕(①②③④⑤⑥⑦⑧⑨)

14 世話〔hewa〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) 15 芹〔heiti〕(1①②③

④⑤⑥⑦⑧)

①〔he〕→〔se〕とならなす⑥

1 選挙〔senkjo〕 2 先生〔sense〕 3 戦争〔senso〕 4 千

円〔senen〕 5 セメント〔semento〕 6 製材〔se:zai〕 7 背

広〔sebiro〕 8 生徒〔se:to〕

〔2〕 語中

①〔he〕→〔se〕

1 やんや〔anebo〕(①②③④⑤⑥⑦⑧) 2 稼へ〔kahajru〕

- (10) 3 落や [fahegaman] (1) 2
- (2) 4 殺や [jaheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9
- 10 待たや [makaheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10
- 11 食たや [mataheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
- 12 乗や [noheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
- 13 見や [nopheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13
- 14 着や [nihemon] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14
- 15 着や [kheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
- 16 着や [muheru] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

⑧ [he] + [se] とならなう

- 1 風船 [Furisen] 2 舞錢 [saisen] ・ 3 水仙 [mekasi] 3 水仙
- [swisen] 4 汽船 [kisen] 5 一錢 [nisen] 6 友や [k
- i:stro] ・ 7 親戚 [sinseki] 8 温泉 [onsen]
- 9 便袋 [binsen] 10 新生 (タマ) [sinsei] 11 ナッタヤ
- [otiose:]

【語末】

⑨ [he] + [se]

- 1 汗 [ahe] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 2 寝汗 [nehe] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 3 早瀬 [waha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 4 店 [m
- ihe] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 5 貸や [kaha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 6 出や [daha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 7 落かや [tokaha]
- (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 8 飲や [nomaha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 9 話や [hanaha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 10 廻や [maw
- aha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 11 知や [siraha] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

- 9 3 落や [to
- he] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 10 15 通や [tohe] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- 16 廻や [ka
- kutse] (1) 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20
- ⑩ [he] + [se] とならなう
- 1 冷汗 [sijase] 2 袴替 [kawase] 3 布施 [Furse] ・ 4 袴 [Furse]
- 4 袴 [kutse] 5 手袴 [tekuse] 6 口袴 [kutfi
- juse]

四

以上、三・[1]、[2]、[3]と見通してくると、[he] + [se] のおこなわれかたは、相当に盛んであると言えよう。が、すべし、規則正しく、[he] + [se] と実現されるのではない。そこには、ちまよまの条件が考えられる。左に、それらの条件のいくつかについて、述べてみたい。

1、世代、性別

[he] + [se] の保有傾向は、古者層ほど濃厚で、世代の新化につれてうすくなっている。性別という点では、相対的ではあるが、中年以上の女性に保守的傾向が認められる。

2、話者の教養、履歴

話者の教養とか履歴も、[he] + [se] 保有の有無強弱と、かなりの関係があるように思われる。

例えば、同一方言社会（学治）内でも、教師とか僧侶、役人、元軍人、あるいは出稼者などになると、他の人々に比べて、保有の度合が弱く、[he] + [se] に対する一種の自覚を伴うのが常である。

る。これを、かりに「正音意識」と名づけてみたい。

3、語種

語種によつては、[he]↑[se]の実現されないものが認められる。(三)の(1)、(2)、(3)の(8)

それらの語種については、次のような事情が考えられよう。

(A) 新生、新来とか、生活に疎遠と考えられるもの。例えば、セメント、オートセイ、背広、新生(タバコ)など。

(B) 音環境によると思われるもの。例えば、風船、賽銭、水仙、汽船(二銭などのように、[~m]・[~i] + [~o]のような音環境を持つ語詞。逆に、[~a] + [~u]のような音環境では、[he]が実現されやすい。

(C) 大体、漢語系の語詞には、和語系の語詞に比べて、[he]↑[se]が見出されにくい。

これらのほかに、いわゆる複合の有無という観点からも問題はあろう。(今回は紙幅の都合で省略)

五

[henko:] (線香) や [hembei:] (せんべい) などを笑う中年以下の世代も、「狭う」は [həbai]、「背中」は [henaka] である。若い世代が、持ちつゝある正音意識に照らし、[he]↑[se]を含むことばに対しては、軽い卑しめとか、親愛の感情を附与することともなっている。

一中年男子が、『同輩の友人などとの話では、普通、「センドサン」(船頭さん)と言うが、老人との話で「ヘンドサン」と言うのは、「ヘンドサン」を常用する老人になじんで、いく気持で言う』と

説明したのは、待遇しようとする側の自然な心持を語ったものと思われる。とすれば、「ヘンドサン」は、結果的には、[he]音利用の待遇表現とも言えよう。

「カヘ」(貸せ) 以下のサ行四段活用動詞命令形 (三)、(3) (A) 6 ↓ 16) は、「カヘ マー。」(よこせよ。)のように、文末詞「マー」をとって、やゝぞんざいな、親愛気分にあつた命令表現を実現する。これが、日常きわめてよく用いられる。そのような命令表現への [he] 音の生かされかたが注目される。

「見て下さい。」を、待遇表現法上、部落人が、1ミテ クダシセ。2ミテ クダシシー。3ミテ クサイマヘー。4ミテ クサイヘー。5ミテ クサヘー。のように序列づけていることにも、[he] 音の利用をみてとることができる。「先生」を「ヘン「サマ」(能登・宇出津などで言う) などとあつてよい可能性の中で、「センセー」の発音習慣に、ひとしく従っているのは、「先生」という人格に対する待遇意識が、正音意識を刺戟してのことだらうか。

「ぼろのつくろい」を [hendakui]、「洗濯」を [sentaku] と、部落人が、全くきれいに使わけているのは、もとより、アクセント、それに [da]、[ta] の差異を生かしてのことではあるが、[he] 音の利用も見のがせまい。

それはともかく、宇治の方言社会における [he] 音は、特に待遇表現の見地から注目される。

六

藤原先生の「裏日本地方のことばの発音」(音声の研究、一九五一年、一八八頁)によれば、[he]↑[se]の発音は「裏日本にたどられる」とのことであるが、ここ奥能登宇治方言社会では、若

い世代を中心に、次第に〔エ〕↑〔ヱ〕の発音を失っていくよう
に見受けられる。

(鈴ヶ峯女子短大助手)

編集部注。活字不備の為、温泉〔オンセン〕先生〔センセ〕な
どの〔ン〕に〔セ〕、が行鼻濁音に〔〇〕を代用した。